

河川レンジャーが中心となった取組み

河川レンジャーが中心となった取組みである「淀川管内河川レンジャー会議」「淀川管内河川レンジャー実行委員会」「淀川発見講座・レンジャー養成講座」「河川レンジャー研修」「連携活動」の平成22年度の開催状況は以下のとおりです。

1. 河川レンジャー会議

会議	日時	場所	議題・プログラム	参加人数
第7回	H22.5.24(月) 14:00～17:15	中央流域 センター	淀川河川事務所からの報告 ・運営要領の改正について ・淀川住民参加推進プログラムの パブリックコメントについて 河川レンジャー実行委員会からの報告 ・講座の実施について ・研修の実施について 河川レンジャー会議事務局からの報告 ・レンジャー活動ガイドについて 意見交換 ・活動日誌・活動報告の提出の適 正化 ・その他	河川レンジャー 20名 河川レンジャー事務局 4名 淀川河川事務所 6名 河川環境管理財団 6名
第8回 (活動 発表・ 交流会)	H22.12.18(土) 13:00～17:00	中央流域 センター	第1部 講演 「いま、河川レンジャーの出番」 第2部 経験交流 第3部 ふりかえり	河川レンジャー 28名 代表者会議委員 4名 運営会議委員 6名 河川レンジャー事務局 10名 淀川河川事務所 19名

2. 実行委員会

委員会	日時	場所	議題	参加人数
第4回	H22.4.22(木) 15:00～17:45	上流域流域 センター	講座科目内容の調整について 河川レンジャー研修について 琵琶湖 淀川つながろうフォー ラムについて 次回の実行委員会について	河川レンジャー 9名 河川レンジャー事務局 4名 淀川河川事務所 11名 河川環境管理財団 5名
第5回	H22.5.17(月) 14:00～16:50	中央流域 センター	講座の役割分担の決定と確認 発見講座テキストの確認 養成講座受講者の決定方法の変更 レンジャー活動演習の対象活動に ついて 河川レンジャー研修について その他 次回の実行委員会について	河川レンジャー 9名 河川レンジャー事務局 3名 淀川河川事務所 7名 河川環境管理財団 6名
第6回	H22.6.18(金) 14:15～17:15	中央流域 センター	発見講座の反省 養成講座の役割分担の確認 レンジャー活動演習の確認 河川レンジャー研修について その他 次回の実行委員会について	河川レンジャー 8名 河川レンジャー事務局 4名 淀川河川事務所 9名 河川環境管理財団 4名
第7回	H22.7.20(火) 15:05～17:50	中央流域 センター	レンジャー養成講座の反省 連携活動・河川レンジャー研修に ついて その他 次回の実行委員会について	河川レンジャー 9名 河川レンジャー事務局 3名 淀川河川事務所 5名 河川環境管理財団 3名

第 8 回	H22.8.19(木) 14:20 ~ 17:00	中央流域 センター	河川レンジャー研修について 連携活動について その他 次回の実行委員会について	河川レンジャー 河川レンジャー事務局 淀川河川事務所 河川環境管理財団	7 名 3 名 8 名 4 名
第 9 回	H22.9.15(水) 16:05 ~ 18:30	上流域流域 センター	河川レンジャー会議 活動発表・交 流会について 河川レンジャー研修について 連携活動について 河川レンジャーの特例再任に関わ る運営要領の改正の報告 次回の実行委員会について	河川レンジャー 河川レンジャー事務局 淀川河川事務所 河川環境管理財団	5 名 4 名 11 名 3 名
第 10 回	H22.10.27(水) 17:15 ~ 20:00	中央流域 センター	淀川河川公園地域協議会について 来年度の講座について 河川レンジャー会議 活動発表・交 流会について 連携活動について その他 次回の実行委員会について	河川レンジャー 河川レンジャー事務局 淀川河川事務所 河川環境管理財団	7 名 4 名 9 名 3 名
第 11 回	H22.11.15(月) 16:35 ~ 18:25	中央流域 センター	来年度の講座について 河川レンジャー会議 活動発表・交 流会について 連携活動について その他 次回の実行委員会について	河川レンジャー 河川レンジャー事務局 淀川河川事務所 河川環境管理財団	5 名 2 名 9 名 4 名
第 12 回	H22.12.15(水) 14:00 ~ 16:00	中央流域 センター	来年度の講座について 河川レンジャー会議 活動発表・交 流会について その他 次回の実行委員会について	河川レンジャー 河川レンジャー事務局 淀川河川事務所 河川環境管理財団	6 名 4 名 7 名 3 名

3 . 講座

講座	日時	場所	科目	スタッフ参加人数	
淀川 発見講座	H22.6.5(土) 9:30 ~ 17:00	中央流域センター	・ 淀川の治水と魅力 ・ 淀川の特性と環境 ・ 淀川のなりたち	河川レンジャー 河川レンジャー事務局 淀川河川事務所 河川環境管理財団	12 名 4 名 16 名 4 名
	H22.6.6(日) 9:30 ~ 17:00	上流域流域センター	・ 淀川探訪 (屋外歴史ウォーキング) ・ 淀川と河川レンジャー	河川レンジャー 河川レンジャー事務局 淀川河川事務所 河川環境管理財団	11 名 4 名 14 名 4 名
レンジャー 養成講座	1 日目 H22.6.19(土) 9:40 ~ 16:30	中央流域センター	・ 河川レンジャーへの理解 ・ 水と生活 ・ 川に学ぶ体験活動 ・ 水害と水防 (講義・実習)	河川レンジャー 河川レンジャー事務局 淀川河川事務所 河川環境管理財団	13 名 4 名 12 名 4 名
	2 日目 H22.6.26(土) 9:00 ~ 18:00	実習 木津川開橋周辺 講義等 木津川出張所 管内流域センター	・ 淀川の自然 (実習) ・ 水辺の安全 (講義・実習)	河川レンジャー 河川レンジャー事務局 淀川河川事務所 河川環境管理財団	6 名 2 名 12 名 5 名
	3 日目 H22.7.10(土) 9:30 ~ 16:40	中央流域センター	・ 活動計画づくりの基礎知識 と実践 ・ 河川のルールとマナー ・ これからの淀川	河川レンジャー 河川レンジャー事務局 淀川河川事務所 河川環境管理財団	16 名 3 名 11 名 5 名

4．河川レンジャー研修

研修	日時	場所	内容	河川レンジャー 参加人数
淀川水上見学会	H22.5.11(火) 9:30～16:00	枚方船着場～海老江船 着場	巡視船に乗り、水上からの淀川見 学会	6名
河川行政研修会	H22.7.12(月) 9:00～17:00	午前 中央流域センター 午後 現地見学(7箇所)	淀川河川整備計画と淀川河川事務 所が管轄する事業を理解する	18名
外来生物研修会	H22.9.7(火) 9:00～17:10	午前 渡月橋付近 午後 上流域流域センター	河川レンジャーとして必要な外来 種の知識を学ぶ	午前 8名 午後 12名

5．連携活動

連携活動	日時	場所	内容	河川レンジャー 参加人数
新淀川 100年 水都大阪と淀川	H22.10.9(土) H22.10.23(土) 13:00～13:40 14:30～15:10	大阪歴史博物館	大阪歴史博物館との共催に より、ヨシを用いた工作等の ワークショップを開催	4名
第14回 寝屋川市・ エコフェスタ	H22.11.21(日) 9:00～15:00	打上川治水緑地	パネル展示・ヨシタペストリ ーの工作体験等の出展	2名
琵琶湖 淀川 つながろうフォーラム	H22.12.2(木) 10:00～17:00	午前 点野わんど等 午後 中央流域センター	・寝屋川の水辺再生や河川レ ンジャーの取組紹介の他、大阪 湾・琵琶湖の活動を紹介 ・意見交換会	2名
京都環境フェスティバル 2010	H22.12.11(土) H22.12.12(日) 10:00～16:00	京都府総合見本市会館 (京都パルスプラザ)	・パネル展示・魚展示・ヨシ の工作体験等の出展 ・環境ワークショップの開催	9名

第 8 回河川レンジャー会議 活動発表・交流会 報告

平成 22 年 12 月 18 日に行われた第 8 回河川レンジャー会議 活動発表・交流会について報告します。

1. 目的

河川レンジャー同士が本音で討論し、現場の声を伝え、聴き、“事例から学ぶ”ことにより、河川レンジャーのあり方を考え、深めることを目的とする。

併せて、全国的にも珍しい河川レンジャー制度の発展を図るための講演を開催する。

2. 日時

平成 22 年 12 月 18 日（土） 13 時～17 時

3. 場所

中央流域センター 多目的ホール

4. 出席者

・淀川管内河川レンジャー	28 名
・代表者会議委員	4 名（事務所長含む）
・運営会議委員	6 名
・レンジャー事務局	10 名
・淀川河川事務所 関係者他	19 名
・木津川上流管内河川レンジャー	1 名
・木津川上流管内河川レンジャー事務局・事務所関係者	2 名
・その他	1 名
計	71 名



5. プログラム

時間		プログラム												
13:00 ~ 13:05	5分	開 会 [挨拶 上田 豪 議長] [挨拶 森川 一郎 淀川河川事務所長]												
13:05 ~ 14:05	60分	第1部 講演 [片寄 俊秀 代表者会議会長] テーマ：『いま、河川レンジャーの出番』												
14:05 ~ 14:35	30分	第2部 経験発表交流 2つのテーブルに分かれ、話題提供者から発表して頂く話題を基に、河川レンジャー同士で討論を行う。 [総 括 上田 豪レンジャー] 1. 話題提供 話題提供者は、以下の各運営会議から1名の河川レンジャーとし、アンケート結果を踏まえた課題等を5分程度で発表して頂く。(話題提供者が作成した課題要旨を配布) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 60%;">話題提供者</th> <th>話題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>福島・毛馬出張所管内 崎谷久義レンジャー(1年目)</td> <td>河川レンジャー1年の活動記録</td> </tr> <tr> <td>枚方出張所管内 瀬野卓男レンジャー(3年目)</td> <td>枚方地区の活動内容と課題</td> </tr> <tr> <td>高槻・山崎出張所(大阪府域)管内 谷岡寿和子レンジャー(3年目)</td> <td>河川レンジャーが主体となったレンジャー活動の運営に向けて</td> </tr> <tr> <td>伏見・桂川・山崎出張所(京都府域)管内 中川雄介レンジャー(5年目)</td> <td>会社勤めをしながらの活動実施・推進拡大の悩み</td> </tr> <tr> <td>木津川出張所管内 福井波恵レンジャー(2年目)</td> <td>河川レンジャーをしていて思う事、考えること</td> </tr> </tbody> </table>	話題提供者	話題	福島・毛馬出張所管内 崎谷久義レンジャー(1年目)	河川レンジャー1年の活動記録	枚方出張所管内 瀬野卓男レンジャー(3年目)	枚方地区の活動内容と課題	高槻・山崎出張所(大阪府域)管内 谷岡寿和子レンジャー(3年目)	河川レンジャーが主体となったレンジャー活動の運営に向けて	伏見・桂川・山崎出張所(京都府域)管内 中川雄介レンジャー(5年目)	会社勤めをしながらの活動実施・推進拡大の悩み	木津川出張所管内 福井波恵レンジャー(2年目)	河川レンジャーをしていて思う事、考えること
話題提供者	話題													
福島・毛馬出張所管内 崎谷久義レンジャー(1年目)	河川レンジャー1年の活動記録													
枚方出張所管内 瀬野卓男レンジャー(3年目)	枚方地区の活動内容と課題													
高槻・山崎出張所(大阪府域)管内 谷岡寿和子レンジャー(3年目)	河川レンジャーが主体となったレンジャー活動の運営に向けて													
伏見・桂川・山崎出張所(京都府域)管内 中川雄介レンジャー(5年目)	会社勤めをしながらの活動実施・推進拡大の悩み													
木津川出張所管内 福井波恵レンジャー(2年目)	河川レンジャーをしていて思う事、考えること													
14:35 ~ 14:50	15分	< 休憩・配置換え >												
14:50 ~ 16:30	100分	2. 討論 [テーブルA] 進行役 辻川 松子レンジャー、補助役 中島 敏明レンジャー [テーブルB] 進行役 仁枝 洋レンジャー、補助役 山村 武正レンジャー												
16:30 ~ 16:55	25分	第3部 ふりかえり												
16:55 ~ 17:00	5分	閉 会 [挨拶 山村 武正 副議長]												

6. 第1部 講演

『いま、河川レンジャーの出番』

片寄 俊秀 淀川管内河川レンジャー代表者会議会長

主な内容

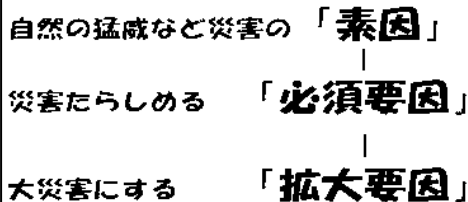
河川レンジャーの出番

- ・ 災害に弱い人間が増えている今こそが河川レンジャーの出番である。
- ・ 次世代をどう育てるかが問題であり、天才にはなれないが、達人にはなれる。その達人のやり方をきちんと学ぶべきである。
- ・ 河川レンジャーの責務は、つねに学習、つねに努力をすることである。



災害の基本構造

「災害論」(佐藤・奥田・高橋+木村)の考え方



防災まちづくりの基本とは

「素因」をなくす → 不可能な場合が多い
「必須要因」をなくす → 大いに努力すべき
「拡大要因」→ この根っこを断つ必要
問題は、わが国では、「拡大要因」がますます増大していること。
原発列島、乱開発、森林保全の放棄、過密・過疎。
とくに大都市圏では、これがますます肥大化。
地下街の増殖、超高層ビルの林立などなど。
さらに、災害に弱い人間が増えている問題。

レンジャー活動に参加して

- ・ 山村レンジャーの活動に参加した際の子どもを惹きつける達人の技を紹介。
人格者であることが、河川レンジャーに求められ、期待されていることである。
- ・ パークレンジャーから作家となった方の紹介。
パークレンジャーのように、河川レンジャーからもスターが現れ、社会にアピールしていただきたい。

災害について

- ・ 淀川の災害について
 - 地下街は管理者が異なり、防災訓練等を行っていない
 - 淀川下流部には上町断層が存在する
 - 大阪は木造密集市街地である
- ・ 災害発生要因について
 - 山口県防府市の土砂災害は、地形を観察せず、老人ホームを建てた
 - 兵庫県佐用町の水害は、山の保水力低下と市町村合併で土地を知らない担当者が赴任することなどにより、詳細な情報が把握出来てない
 - 兵庫県神戸市の都賀川での水害事故のようなことがないよう、川は楽しいが恐ろしいところでもあることを教える大人が必要

7. 第2部 経験発表交流

(1) 話題提供

崎谷久義レンジャー [福島・毛馬出張所管内 1年目]

『河川レンジャー 1年の活動記録』

・レンジャー活動の概要、今後の豊富

河川レンジャー (H22年度) 1年の取り組み

- 1、東淀川区民文化講座 (東淀川区民ホール)
・意外と知らない! 淀川の話
・河川レンジャー活動紹介パネル展併催 (区役所1階で、二週間)
- 2、大阪市立住まい情報センター タイアップ事業
・連続講座「淀川の楽しみ方」 ミネ-「都会の川を楽しむ方法」
まち歩き体験「さあ、川に出かけよう!」
・パネル展「淀川の楽しみ方」併催 (情報センター4階展示スペースで、一ヶ月間)
- 3、大阪市立東淀川図書館 タイアップ事業 (第13回大阪市図書館フェスティバル協賛)
・淀川親子入門講座「淀川に親しむ」 ミネ-「淀川の生き物」
「淀川」展 併催 (図書館展示ケースに隣接で、一ヶ月間)
・「淀川」展 併催 (図書館展示ケースに隣接で、一ヶ月間)
+「大阪の橋と川」展 (図書館コーナー併設)

崎谷久義 / 淀川管内河川レンジャー活動

河川レンジャー (H22年度) 1年の取り組み

- 4、川づくり・人づくりへの参画、支援する活動 (神戸大学漕艇部+東淀川区民)
・ボート沈没実験「安全確認実践研修会」
(城東貨物線鉄橋 右岸 神大合宿所及び河川水上で、)
- 5、レンジャー研修会、勉強会などへの参加、同期レンジャーとの親交で意見交換と援け合い
・「淀川発見講座」「河川行政研修-音所視察」「水上視察研修」「外来生物研修」
・「新人レンジャー勉強会」「活動のイトの配布」「R活動相互のサポートで、学び
- 6、総括すると -----

崎谷久義 / 淀川管内河川レンジャー活動

河川レンジャーとして
*地道ながらも継続することによって、
川の理解と親しみが深まっていくような機会を用意する。

川の案内者 (市民と行政をつなぐコーディネーター)

河川の「安全性や利便性など、社会環境面の紹介」「水質や生態系の保全といった、自然環境面の啓蒙」活動を通じて

↓

先人達が恩恵と災いを受けながら、共生してきた河川の歴史を思い

↓

「多様な生態系を育む水辺環境」は人間生活にとっていかに大切な存在か、理解を深めてもらいたい

↓

(市民と川の豊かなふれあいを増す活動)

瀬野卓男レンジャー [枚方出張所管内 3年目]

『枚方地区の活動内容と課題』

・平成22年度の活動概要

- 具体的な活動内容
- 活動から把握できた枚方地区の特徴

・課題

- 住民代表として環境委員会へ発言の機会を要望
- 河川整備計画の充実へ向けたレンジャー活動を実施するため、河川整備計画の内容を把握 (河川レンジャー研修の“河川行政研修会”は有意義であった)
- 一過性のイベントだけでなく、市民と継続的に関わっていく活動の実施

谷岡寿和子レンジャー [高槻・山崎出張所 (大阪府域) 管内 3年目]

『河川レンジャーが主体となった、レンジャー活動の運営に向けて』

・河川レンジャーが主体となった活動における今後の運営の取り組み方を問題提起

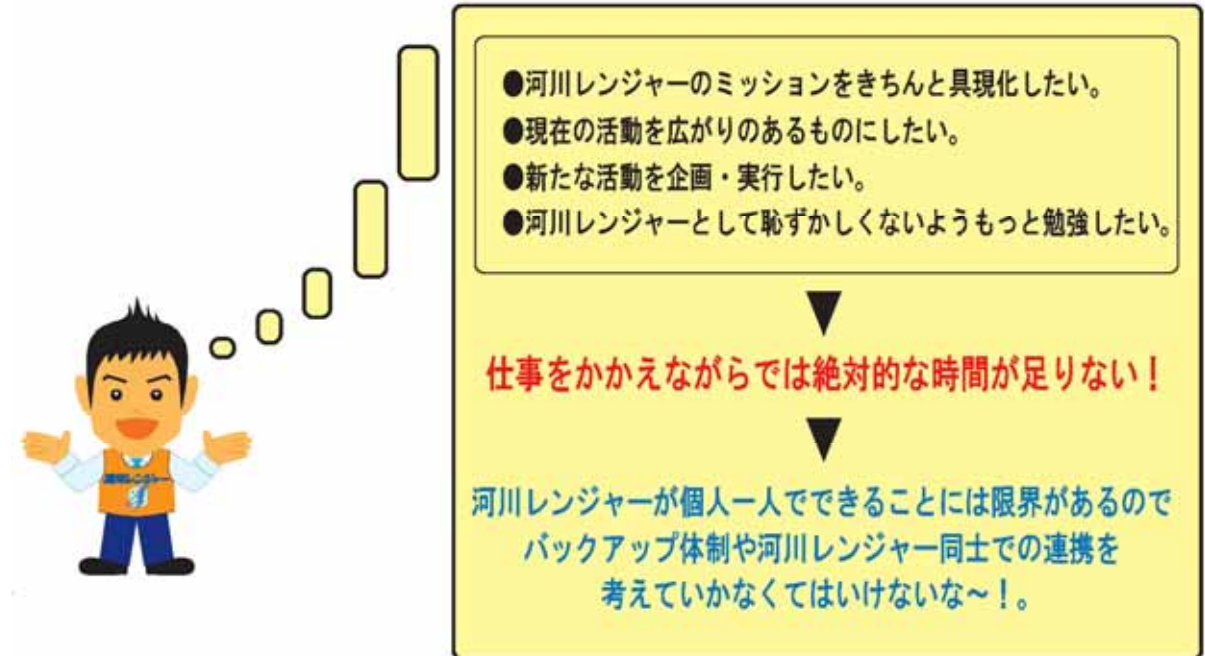
- 実行委員会
- 新規河川レンジャーの募集を目的とした連続講座
- 現役河川レンジャーの向上を目的とした研修

中川雄介レンジャー [伏見・桂川・山崎出張所(京都府域)管内 5年目]

『会社勤めをしながらの活動実施・推進拡大の悩み』

・悩み

- 仕事を優先せざるを得ない
- 新たな活動を行いたいが、情熱だけではどうにもならない部分があり、現在の活動を行うのみとなっている



●河川レンジャーのミッションをきちんと具現化したい。
●現在の活動を広がりのあるものにしたい。
●新たな活動を企画・実行したい。
●河川レンジャーとして恥ずかしくないようもっと勉強したい。



仕事をかかえながらでは絶対的な時間が足りない！

河川レンジャーが個人一人ですることには限界があるので
バックアップ体制や河川レンジャー同士での連携を
考えていかななくてはいけないな～！。

福井波恵レンジャー [木津川出張所管内 2年目]

『河川レンジャーをしていて思う事、考えること』

・悩み

<p>1 多くの人を集めることは大変！チラシ配布、 ポスター貼り・新聞…….. 自治体めぐりをしてレンジャーの顔をうりこむ!!</p> <p>どんな方法で人集めを？</p>	<p>2 河川の自然、状況を伝える活動を通して 木津川の現状を明らかにし、川に関心 を持つ人々の輪を大きくできたか？ イベントだけに終わっていないか？</p> <p>3人のレンジャーで40近くの取り組み</p> <p>イベントで終わらせない工夫は？</p>	
<p>3 川に積極的にかかわる住民を育てるこ とができたか？川づくりができたか？</p> <p>川に関心を持つ人たちが行動できる場所、 取り組みをしないと人は育たないし、 川は変わらない! どんな方法が有効なのだろう？</p>	<p>4 魚とりは、すごいニーズがある。川遊びや 防災を体験させるには、多くのスタッフが 必要。どうやってスタッフを確保するか？ スタッフへの配慮は？</p>  <p>錦子川の学校 川で遊ぼう 魚をとろう 防災体験</p>	<p>5 河川レンジャーをどのように作って 作っていくのか？</p> <p>参加者の中からスタッフへ、 そしてレンジャーへ</p> 

・良かったこと

- イベントだけではなく、活動団体交流会を行ったことによりネットワークが出来た
- 活動に対する実行委員会の設立や、スクール制による継続した活動により川に関わる住民を育てた

(2) 討論

[テーブルA] 14名

進行役 辻川 松子レヅァー
 補助役 中島 敏明レヅァー
 話題提供者 崎谷 久義レヅァー、谷岡 寿和子レヅァー
 参加レヅァー 菊井 睦夫レヅァー、池宮 實レヅァー、
 原田 修一レヅァー、三輪 栄子レヅァー、
 立川 亨一レヅァー、荘司 弘之レヅァー、
 吉川 正之レヅァー、中川 ゆり子レヅァー
 小西 勝人レヅァー、石山 郁慧レヅァー



[テーブルB] 12名

進行役 仁枝 洋レヅァー
 補助役 山村 武正レヅァー
 話題提供者 瀬野 卓男レヅァー、福井 波恵レヅァー
 参加レヅァー 山口 進レヅァー、酒井 信行レヅァー、坂本 清レヅァー、田子 稔レヅァー、
 柳沼 宣裕レヅァー、田中 実知世レヅァー、山田 信人レヅァー
 西 祐治レヅァー(木津川上流)

各テーブル発表内容

項目	テーブル	討論のまとめ(発表内容)
活動に対する思い	A	・淀川で安全に楽しく遊んでもらう
	B	・多くの川ガキをつくる ・安全で安心して遊べるきれいな川を目指す
良かったこと	A	・行政に聞く耳をもっていただけ ・良い人同士の人とのつながりを持つことが出来た ・参加者がにこにこ顔で帰ってくれた
	B	・川の植物、鳥、魚、虫などに興味を持つ人が増えた ・多くの人との出会い、広がりにより、スタッフができつつある ・環境委員会に行くことによりワンドの展望が分かったことなど、川づくりの第一歩が踏み出せている
悩み	A	・河川レヅァーの認知度の低さを感じる ・もっと参加者を増やしたい ・参加者の多さを目指すのではなく、何を伝えたいかが大事
	B	・地域の人や河川レヅァー自身の要望をどう反映させていけばよいか ・スタッフに対して、弁当代など交通費以外の経費がほしい
反省	A	・思いつきでレヅァー活動を進めたこと ・参加者が集まらない
	B	・課題等について団体(NPO)や地縁(自治会)との交流、協働連携が必要であり、今後行いたい

項目	テーブル	討論のまとめ（発表内容）
工夫	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の交流を進めて、出前講座を行う ・河川レンジャー事業の良さを知ってもらう
	B	<ul style="list-style-type: none"> ・活動テーマが違う河川レンジャーの連携による活動 ・川の利用者の意見を集めるためには、川を歩くことが必要
要望と期待	A	<ul style="list-style-type: none"> ・若い河川レンジャーを増やすことが大事 ・河川レンジャー同士の連携 ・行政との連携 ・得意分野をのばすことが大事 ・教育委員会（研究部）にレンジャー活動を申し出る ・ワンド再生事業の内容について、説明看板等 PR することが必要
	B	<ul style="list-style-type: none"> ・活発な意見交換が出来るような今後の運営会議のあり方の検討 ・河川レンジャー間の上下流の連携、行政間の横の繋がり ・委員会等、行政の情報をリアルタイムで提供していただきたい ・女性にレンジャー活動へ参加していただくためには、トイレの設置が必要 ・イベントの先の展開を今後行っていきたい ・新流域委員会への河川レンジャーの関わり方

（３）総括

上田 豪レンジャー

- ・レンジャー活動を前へ進めるには、行政との連携がポイントとなっている。
- ・行政は支援してくれるが、進めるのはレンジャー自身である。
- ・レンジャーとレンジャー、行政とレンジャーで連携し、学び合うことが重要。
- ・河川レンジャーが認知されていない。
- ・新人の悩みは、活動をどのように進めていくのかが分からない。
- ・障害者に配慮した川づくりにするのは、障害者が川に関わらないと分からない。本当のユニバーサルデザインを発信したい。
- ・模索しながら活動する第２期に入ったのではないか。もう一度原点に戻り、確実に進める必要がある。
- ・このような長期的な取組みはない。その意味で淀川が第一線である。

片寄 俊秀会長

- ・名刺を印籠にしたら話題になって PR になるのではないか。
- ・障害者へのアクセスを考えるのは興味深い。障害者は出かける場がなくなってきている。障害者を対象にすると、河川レンジャーの新たな展開が見えてくるのではないか。
- ・河川レンジャーを上手く根付かせたい。
- ・レンジャー自身がそれぞれ、淀川から全国へと発信して頂きたい。

川レンジャー 11名
 川レンジャー事務局 4名
 川河川事務所 14名
 川環境管理財団 4名



	時間	講師 (敬称略)
	9:30 ~ 9:40 (10分)	淀川河川事務所長の挨拶
	9:40 ~ 10:40 (1時間)	宮本 博司 (元淀川河川事務所長)
	10:50 ~ 11:50 (1時間)	綾 史郎 (大阪工業大学 工学部教授)
	11:50 ~ 12:50 (1時間)	
	12:50 ~ 13:50 (1時間)	三木 善則 (御香宮神社 宮司)
ウォーキング)	14:00 ~ 16:00 (2時間)	三木 善則 (御香宮神社 宮司)
ー	16:15 ~ 16:45 (30分)	松岡 徹 (淀川管内センター河川レンジャー)
	16:45 ~ 17:00 (15分)	レンジャー養成講座の案内 河川レンジャー審査の説明 RACリーダーの説明

後の整備のあり方
の形成



種・生息地の変遷



近世の舟運 (外輪船)



淀川探訪 (屋外歴史ウォーキング)

城下町として大小の船がにぎわい、発着場として栄えた伏見港。今にその姿を残し
えの人と淀川との関わりを学ぶ。

寺田屋
土佐藩邸跡
角倉了以記念碑
上流域流域センター
十石舟乗船場
十石舟降船場

→ : 徒歩ルート
→ : 乗船ルート

淀川と河川レンジャー

(内容)
河川レンジャー誕生の背景



川レンジャー 13名
 川レンジャー事務局 4名
 川河川事務所 12名
 川環境管理財団 4名



	時間	講師 (敬称略)
	9:40 ~ 9:50 (10分)	
理解	9:50 ~ 10:50 (1時間)	山村 武正 辻川 松子・上田 豪・中島 敏明・仁枝 洋 (淀川管内河川レンジャー)
	11:00 ~ 12:00 (1時間)	原 稔明 (独立行政法人 水資源機構 関西支社長)
	12:00 ~ 13:00 (1時間)	
	13:00 ~ 14:00 (1時間)	田中 謙次 (RACトレーナー、 関西文化研究所 主任研究員)
講義	14:10 ~ 15:10 (1時間)	裕永 正光 (元淀川左岸水防事務組合 収入役)
実習	15:20 ~ 16:20 (1時間)	
	16:25 ~ 16:30 (5分)	レンジャー養成講座 2日目の案内

の理解

への理解 (山村レンジャー)

のやる気を

レンジャーの心得
 管理方法と注意点
 考え方
 ネットワークづくり
 心答



について

由来
 について



自己紹介の方法
 ・川について思いついたことを記入
 ・分類分けし、それぞれのグループ
 にて討論
 川に学ぶ体験活動 (RAC) リーダー
 に必要なもの



水害と水防 (講義)

(内容)
 淀川水系の特徴
 水防のなりたち
 水害体験談
 大阪・京都の水防団



水害と水防 (実習)

(内容)
 土のう作り
 積み土のう工
 家庭でできる簡易水防工法
 ・土のうの代わりにプランターや
 段ボールを用いる工法



川レンジャー 6名
 川環境管理財団 2名
 川河川事務所 12名
 川環境管理財団 5名



水主生物調査と水質判定
 川の特性調査（水温・流速・透視度）
 魚類調査、投網打ちの方法
 パックテストを用いた簡易水質調査 [昼休み]

川の特性調査（流速）



川の特性調査（透視度）



投網打ちの方法



水辺の安全（講義）

（内容）

- 河川における事故の特徴と問題点
- 川の構造
 - ・川の流れ（層流・螺旋流）
 - ・代表的な水理現象
 - ・危険箇所、危険要因
- 救助の初期対応方法
- 河川での救助に求められるもの



水辺の安全（実習）

（内容）

- リバースイミング
 - ・身を守りながらの泳法
 - ・積極泳法
- スローロープによる救助法
 - ・相手が受取りやすい投げ方
 - ・1投目に失敗した際の2投目の投げ方
- 要救助者運搬法

リバースイミング
（身を守りながらの泳法）



スローロープによる救助



リバース



要救助者

	時間	講師（敬称略）
	9:25 ~ 9:30 （5分）	
実習	9:45 ~ 11:45 （2時間）	河合 典彦 （淀川環境委員会 水域環境部会長）
	12:00 ~ 12:45 （45分）	
講義	12:45 ~ 13:45 （1時間）	佐藤 孝洋 （レスキュー3 ジャパン本部代表）
実習	14:15 ~ 17:15 （3時間）	
	17:45 ~ 17:50 （5分）	レンジャー養成講座3日目の案内



- 川レンジャー 16名
- 川レンジャー事務局 3名
- 川河川事務所 11名
- 川環境管理財団 5名



修了証書の授与

- 河川の区分
- 河川区域の区分
- 河川の使占用
- 河川の危険・不法な利用



	時間	講師 (敬称略)
	9:30 ~ 9:35 (5分)	
基礎知識と実践	9:35 ~ 12:35 (3時間)	寺川 裕子 (NPO法人 里山倶楽部 理事)
	12:35 ~ 13:35 (1時間)	
	13:35 ~ 15:05 (1.5時間)	井村 誠之 (元近畿地方整備局 水政課長)
	15:15 ~ 16:15 (1時間)	森川 一郎 (淀川河川事務所長)
	16:15 ~ 16:40 (25分)	修了証書の授与 プレゼンテーションの案内 レンジャー活動演習の説明

これからの淀川

- (内容)
- 公共建築物等における木材の利用
 - これまでの淀川・これからの淀川
 - 淀川水系河川整備計画
 - 当面の主なプロジェクト
 - ・河川環境
 - ・治水・防災
 - ・利用
 - ・人と川とのつながり (河川レンジャー)



基礎知識と実践

- 事例と課題
- 役割
- 型会議の体験
- ブレインストーミングと整理
- プログラムの具体化と発表
- 型会議の意図びらき
- の工夫
- のポイント



ブレインストーミング



KJ法による整理



活動プログラムの具体化

アイスブレイク

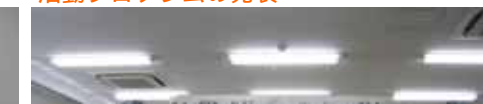


活動プログラムの発表

アイスブレイク



活動プログラムの発表



河川レンジャー研修開催報告

「第3回 水上見学会」

今年度も一昨年、昨年に引き続き、5月11日(火)に「川から見よう淀川を」をテーマに船上から淀川を見学する乗船会を開催しました。

淀川河川事務所が日々管理のために巡視している巡視船「よど号」、「かわかぜ号」に乗船し、巡視しているコースそのままを、船上から淀川を観察していただきました。

日時：平成22年5月11日(火) 9:30～16:00

運航コース：中央流域センター 集合 枚方船着場 出航 毛馬船着場 着
(徒歩) 淀川大堰下流船着場 出航 海老江船着場 着 解散

参加者：12名(事務局含む)

実施状況




1. 平成 22 年 7 月 12 日(月) 河川レンジャー研修「河川行政研修会」

1.1 実施状況

テーマ	河川レンジャー研修：河川行政研修会		
担当	三出張所管内	河川レンジャー酒井・辻川・上田レンジャー	
開催日時	平成 22 年 7 月 12 日(月) 9:00~17:00		
参加人数	参加総数	26 名	
	河川レンジャー	18 名	辻川、池宮、三輪、崎谷、上田、立川、荘司、瀬野、山口、中島、酒井、中川ゆ、谷岡、坂本、中村、田子、仁枝、山村各レンジャー
	講師	1 名	成宮 調査課長
	淀川河川事務所	1 名	岡田係長
	運営事務局	6 名	西野、早瀬、松岡、橋詰、篠平、田井中
講師	成宮氏	(淀川河川事務所調査課)	
スケジュール	<p>9:06 酒井 R のあいさつ</p> <p>9:06 会場全景と出席者のようす</p> <p>9:09 上田講座研修実行委員長のあいさつ</p> <p>9:11 講師成宮課長の紹介</p> <p>13:12 バスで移動開始</p> <p>13:40 牧野わんどでの説明のようす</p> <p>13:41 参加者集合写真</p> <p>14:18 中島 R：芥川一号井堰で魚道の設置について</p> <p>14:21 芥川全景：如是川決壊の歴史について</p> <p>14:39 三島江切り下げ区域の全景</p> <p>14:45 酒井 R：切り下げ区域について質疑応答</p> <p>15:23 上田 R・立川 R：点野わんどでの活動について</p> <p>15:34 山口 R：庭窪わんどの外来種除去について</p> <p>16:13 成宮課長：赤川わんどの変遷について</p> <p>16:41 毛馬出張所での休憩</p> <p>17:00 辻川 R：西中島での野犬対策水路について話の後、閉会のあいさつ</p>		
実施場所 中央流域 C 会議室 ~ 淀川現地			

1.2 事前活動

<p>各種資料</p>	
<p>関係機関からの支援内容</p>	<p>(淀川河川事務所)</p> <p>講師の派遣：淀川河川事務所調査課成宮課長 移動車両の提供（マイクロバス、ワゴン車） 資料の提供 講義時必要機材（プロジェクター 他）</p>
<p>レンジャーの活動内容 (当日レジュメより)</p>	<p>9:00 1. 開講式</p> <p>9:05 2. 淀川水系河川整備計画について ①現状の課題 ②具体的な対応策 ③具体的な事業(工事) 講師 成宮 文彦さん(淀川河川事務所 調査課長)</p> <p>途中休憩15分</p> <p>11:30 3. 質疑応答</p> <p>12:00 4. 会場整理</p> <p>昼休み(12:15~13:00)</p> <p>13:00 5. 現地見学 中央流域センターをマイクロバスで出発 講師 成宮 文彦さん(淀川河川事務所 調査課長)</p> <p>ルート：中央センター→牧野水制工→芥川魚道改良→点野→庭窪→赤川地区ワンド整備→淀川大堰→西中島→阪急十三駅</p> <p>レンジャー活動紹介 ・レンジャー活動紹介(降車) 各レンジャー(中島、酒井、上田、山口、辻川) ・「淀川かわあるき」による歴史・文化紹介(車中) 酒井レンジャー</p> <p>17:00 6. 閉講式 阪急電車 十三駅解散</p>

1.3 活動状況



9:06 酒井 R のあいさつ



9:06 会場全景と出席者のようす



9:09 上田講座研修実行委員長のあいさつ



9:11 講師成宮課長の紹介



13:12 バスで移動開始



13:40 成宮課長：牧野わんどでの説明のようす



13:41 参加者集合写真



14:18 中島 R：芥川一号井堰で魚道の設置について



14:21 芥川全景：如是川決壊の歴史について



14:39 三島江切り下げ区域の全景



14:45 酒井 R：切り下げ区域について
質疑応答



15:23 上田 R・立川 R：点野わんどでの活動
について



15:34 山口 R：庭窪わんどの外来種
除去について



16:13 成宮課長：赤川わんどの変遷について



16:41 毛馬出張所での休憩




17:00 辻川 R：西中島での野犬対策水路について話の後、閉会のあいさつ

1.4 意見・課題

参加者からの意見	<p>淀川水系河川整備計画の説明を受け、淀川における河川環境、治水・防災、利水、利用、維持管理の、現状及び問題・課題並びに対応策について、レンジャーと講師の間で意見交換が行われました。</p> <p>特に治水・防災上の課題、人と川のつながり、水辺や河原の再生について意見がありました。</p>
今後の課題	<ol style="list-style-type: none">1．今回の研修では河川整備計画の全体を把握する目的で実施したが、個別のテーマについて今後実施するかどうか。2．研修の成果を個々のレンジャー活動にどう活かしていくか。

1. 平成 22 年 9 月 7 日(火) 河川レンジャー研修「外来生物研修会」

1.1 実施状況

テ ー マ	河川レンジャー研修「外来生物研修会」 全国的に課題となっている外来生物の問題。レンジャーも活動の中ですでに取り組んでいたりと、今後の取組みを検討したりしている。 ・河川事務所の「地域と行政による協働」の取組み事例から学ぶ、 （平成 16 年「嵐山地区水草対策研究会」を発足。） ・レンジャーの取組みを発表、課題や解決方法を紹介、考える。	
担 当	山崎、高槻出張所管内	仁枝・谷岡・中島 レンジャー
開催日時	平成 22 年 9 月 7 日(火)8:30～17:00	
参加人数	参加総数	22 名
	河川レンジャー	12 名 現地 8 名、池宮、三輪、崎谷、中川ゆり子、田子、中島、仁枝、谷岡 講義 12 名、上記に山本、酒井、山村、福井各レンジャー
	講師	1 名 田村 専門職 [室内講義]
	河川事務所	3 名 芝田 監督官、日朝 専門員、岡田 係長
	運営事務局	6 名 現地 5 名
講 師	田村くに江 氏	淀川河川事務所 河川環境課 専門職
スケジュール	8:30	活動場所は桂川、嵐山の渡月橋、一の井堰上流。 左岸の船着場付近に担当レンジャー、河川事務所、事務局集合
	8:50	参加レンジャー集合
	9:00	道具を車から運搬、準備（胴長、ライフジャケットを着用）
	9:15	除去作業の説明、体調の確認
	9:32	除去作業を開始。対象外来水草はオオカナダモ、コカナダモ。 ・地元の方々や嵯峨中学生と共同で行った。 ・作業は、外来の水草を採り、舟へ引き揚げるのが主。 ・観察 在来種クロモなどとの違い、繁茂している場所と状況、除去前後の環境の変化、魚などの生き物を観察。
	11:00	除去作業を終了、回収した水草の観察、かたづけ、着替え。 移動と昼食
	14:30	室内講義 田村講師 事務所の取組み、外来水草の影響と対策、レンジャーの取組み事例の紹介 中島、福井ほか。 質疑応答、意見を交換
	17:10	終了、かたづけ
実施場所	<p>午前：水草除去は、桂川、嵐山、渡月橋、一の井堰の上流</p>  <p>午後の室内講義は、上流域流域センター 2F 会議室（伏見出張所構内）</p>	

1.2 事前活動

<p>各種資料</p>	 <ol style="list-style-type: none"> 1. 田村講師資料 2. レンジャー発表資料 3. 今後の活動チラシ
<p>関係機関からの 支援内容</p>	<p>淀川河川事務所からの支援</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 関係団体との調整 2. 用具の貸与、運搬、講師の派遣、会場、資料の提供など
<p>レンジャーの 活動内容</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. レンジャー実行委員会で、研修のテーマ「外来生物」を決定。 2. 担当レンジャーで、企画、準備、運営。 3. 淀川河川事務所河川環境課と打合せ。 4. 用具の用意、貸与を受ける。 5. 報告の作成

1.3 活動状況



8:22 主催者による流下防止膜の展張り



8:40 嵯峨中学校の生徒参加者



8:50 本部全景



9:23 レンジャー除去作業説明、体調確認



9:30 オオカナダモ繁茂の状況



9:32 水草の除去、回収



9:36 オオカナダモなどの観察



10:11 レンジャーと中学生の共同作業



9:44 レンジャーによる回収作業その1



10:18 レンジャーによる回収作業その2



10:22 河川事務所回収作業



10:12 作業中の中学校生徒と陸上から安全監視のようす



10:56 渡月橋をバックに集合写真



11:11 回収した藻を前に集合写真



14:52 室内講義



16:45 質疑応答

1.4 意見・課題

参加者からの意見 (敬称略)	<ul style="list-style-type: none">・池宮 有名な観光地の川に大量の水草が繁茂している事に驚いた。駆除や環境の改善への取組みの大切さを感じた。改善していくかについては非常に難しい問題があることも理解できた。総合的な取組みが重要だと感じた。・崎谷 現場：参加者が多様なことが成果に加え、対外的インパクトも有り非常に意義がある事業だと思う。自身の活動にも役立つ良い機会。 講義：田村さんの話は参考になった。自然に人の手を加えすぎることが自然を変化させてしまうのでは？・酒井 ジャンボタニシを食用として再認識できないか。 特定外来種がなぜそこに生息することに問題があるか、整理が必要。 多種多様な情報が入手できた。・田子 長い間、桂川の生物を観察していて年々、外来生物が増加しているのを感じていました。繁殖力の強い外来種といえども生態系が安定していれば入り込むことが難しいといわれていますので河川改修においてはその点充分注意してほしいと思っています。・谷岡 嵐山で水草を採りながら水の良さ、風景の美しさを堪能しました。 他のレンジャーの活動について情報交換ができたことが良かった。・中島 地元の方のお話によると、かつては二枚貝もボテジャコもたくさんいたとのこと、でした。水草を採った後、貝を探してみました。 講義ではいろいろと示唆を頂き、田村講師、皆さまに学びました。・中川ゆり子 流れ藻を止める網の藻を採取、今取ったかと思うと流れの中に又、多くの藻が引っかかっており楽しくもあり忙しい時間であったが、休憩が疲れをとってくれました。講師やレンジャーの取組みに多くを学びました。・福井 嵐山の取組みを知り地元のジャンボタニシ駆除の取組みにおいても組織を作っていく必要を実感しました。レンジャー活動で、駆除だけではなく学習、遊びなど楽しいことも入れて仕切りなおしたとかがえました。 ヌートリア、木津町の鹿川に餌付けをされているそう。留意したい。・仁枝 机上の知識にだけでなく現地での体験はレンジャー活動にとってとても有益な研修であった。今後も現地体験型研修をより多く実施してほしい。 担当地域でもアレチウリが繁茂、住民とともに活動したいと考える。・山本 除去した水草の利用方法を考えてはどうか。外来魚、ジャンボタニシを食べるなどの活用は？外来種との上手な付き合い方を考えても良いのでは？在来のめだかもいることを知ったのは良かった。・山村 講義で外来種問題の概略が理解できた。今後役に立つと思う。 人が川に近づかないことから始まっていると思う、大いに人を近づかせること、レンジャーの役割。 草刈予算の減少は、外来種問題への対策においても認められないと思う。
-------------------	--

今後の課題	<ul style="list-style-type: none">・レンジャー研修について 活動の課題、問題となっていることを、これからもテーマにしてほしいとの声が寄せられた。・外来生物問題 住民とレンジャー、河川管理者で、問題意識をどう共有化し、共に取り組むか。 例えば、ヌートリアに餌付けする人もあれば、駆除したい人もいる。
-------	--